2022 年度　ビーチバレーボールルールの取り扱いについて

2022. 2. 11

【1】　競技参加者の行為に関する事項

19.1　スポーツマンにふさわしい行為

19.1.1　競技参加者は，公式ビーチバレーボール規則に通じていなければならない。また，それを忠実に守らなければならない。

19.1.2　競技参加者は，レフェリーの決定に対し，スポーツマンらしく反論せず，受け入れなくてはならない。疑問がある場合には，キャプテンを通してのみ説明を求めることができる。(規則 5.1.2.1)

19.1.3　競技参加者は，レフェリーの決定に影響を与えたり，またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

19.2　フェアプレー

19.2.1　競技参加者は，レフェリーだけでなく，他の役員，相手チーム，チームメイト，さらに観衆に対しても，フェアプレーの精神で敬意を示し，礼儀正しく行動しなければならない。

（注）

1　ファーストレフェリーの判定に対するキャプテンの質問は受け入れるが，その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく，判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やキャプテン以外の選手が質問に来た場合は，拒否する。

2　競技参加者が，規則 19 に反した場合，警告が与えられる。繰り返した場合は，ペナルティが科せられる。

3　競技参加者が，レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合，警告が与えられる。繰り返した場合は，ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。

②一度指導された後にも，再びキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース)】

①　ファーストレフェリー・セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して，執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。

②ネット越しに相手の選手などに対して，馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

※上記について，威嚇的な態度や行為の内容や程度によって，無作法な行為あるいは侮辱的な行為として判断した場合には，規則２０に基づき，罰則を適用する。

【2】　プレーの動作に関する事項

9　ボールをプレーすること

各チームは，（規則 10.1.2 を除き）それぞれの競技エリアとフリープレー空間の中でプレーしなければならない。

かし，ボールは自チーム側のフリーゾーン外とその延長線上にあるスコアラーズテーブル上から取り戻してもよい。

（注）

1　スコアラーズテーブルの後方は、自コートのフリーゾーン外側と同様に取り戻すことができる。

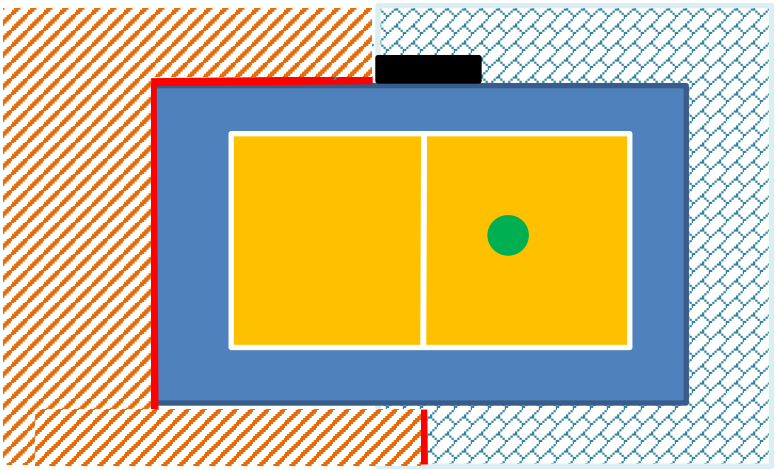
2　相手チームのフリーゾーン外側の垂直面より内側であれば，ボールを取り戻すことができる。

《図解》

フリーゾーン

チームが取り戻すことができないところ

チームがボールをプレーできるところ



12.3　サービスの許可

ファーストレフェリーは，サーバーがエンドライン後方でボールを保持し，両チームがプレーする用意ができていることを確認した後，サービスを許可する。

（注）

1　ラリー終了のホイッスルから，次のサービス許可のホイッスルまでの時間を，12 秒以内のテンポで行う。ラリー間を一定に保つために，選手をコントロールするとともに，ラインや砂の状態，またはボールリトリバーのボール回しの状況を確認することが重要である。

2　ラリー終了 12 秒後に，レシービングチームの準備ができていて，サーバーがボールを保持していれば，ファーストレフェリーは，サービス許可のホイッスルをしてよい。サーバーが準備できているかどうか確認する必要はない。ラリー終了後，レシービングチームの準備が 12 秒よりも早い場合は，サーバーがボールを保持していても，サーバーの準備を待つことができる。また，すべての選手が準備できていれば，12 秒より前にホイッスルしてもよい。ただし，レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は，サービス許可のホイッスルをしてはならない。

3　ラリー終了後，サーバーが速やかにサービスゾーンに移動しない場合や，ボールリトリバーからボールを受け取らない場合，また，ボールを保持した状態でサービスゾーンを平らに直す行為等は，遅延行為として注意を与えなければならない。

14.3　相手空間内でのブロック

ブロックでは，相手チームのプレーを妨害しない限り，選手はネットを越えて手と腕を伸ばしてもよい。しかし，相手チームがアタックヒットを行う前に，ネットを越えてボールに接触することは許されない。

14.6　ブロックの反則

14.6.1　ブロッカーが相手チームのアタックヒット前に相手空間内にあるボールに触れたとき。

（注）
1　相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。
2　アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても、反則ではない。

【3】　中断に関する事項

15.2　正規の試合中断の連続

15.2.3　中断の要求を拒否され，遅延行為に対する罰則を適用された場合は，同じ中断中（すなわち，次のラリーが完了する前）に正規の中断の要求をすることはできない。

15.5　不当な要求

15.5.1　ラリー中，またはサービスのホイッスルと同時か，あるいはその後に要求すること。（規則 6.1.3）

15.5.2　要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

（注）
1　正規の試合中断の要求に関して，チームが遅延警告を受けた場合，同じチームによる試合中断の要求は，次のラリーが完了するまで認められない。
2　サービスのホイッスルと同時か，あるいはその後の試合中断の要求は拒否され，ラリー終了後，記録用紙に不当な要求として記載する。もしもセカンドレフェリーがホイッスルした場合や，ブザーが鳴った場合でも，特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずに，サービスのホイッスルを吹き直し，そのラリー終了後に不当な要求の措置を行う。
3　キャプテンではない選手がタイムアウトを要求したすぐ後（同じラリー間），続いてキャプテンがタイムアウトを要求した場合（キャプテンが要求せずにそのままタイムアウトとしてベンチに戻ろうとしているときは，レフェリーからキャプテンにハンドシグナルを出すよう指示してよい），タイムアウトの要求は許可される。キャプテンではない選手が要求したタイムアウトにキャプテンが同意せずコートに残っている場合等は，不当な要求とみなし，記録用紙に記録する。
（記入例）「チームA　第1セット　3：7　不当な要求」
4　それまでにチームが遅延の罰則を受けていても，不当な要求がチームの最初のものであれば，拒否される。その際，ラリー終了後に不当な要求として記録用紙に記録する。

【4】　試合の遅延に関する事項

16.1　遅延行為の種類

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行動は，遅延行為である。主なものは以下のとおり：

16.1.1　試合を再開するよう指示された後，中断をさらに引き延ばすこと。

16.1.3　試合を遅らせること（通常の試合の状況下で，ラリー終了からサービスのホイッスルまでは，最大限 12 秒間である）。

16.1.4　チームメンバーが試合を遅らせること。

（注）

1　選手が，サングラスを拭いたり砂をならしたりする場合，ラリー終了後，直ちに行わなければならない。一度次のポジションに着いた後に行うことは遅延となる。また，２つ以上の中断行為（サングラスを拭いた後，ラインや砂を直す等）も遅延となる。

2　ＴＯ及びＴＴＯの終了後，コートへ戻る行為が遅い場合，またコートへ戻った後プレーを再開する前にラインジャッジのタオルでサングラスを拭いたりする場合も遅延行為となる。

3　選手の自然なリアクションか，判定をごまかす行動か，または遅延行為か等を的確に見極める。ライン際のボールインのボールマークを消すリアクションは，判定をごまかす行動だけではないことを理解しなければならない。

審判団は，選手がラインを直すことを要求することがないように，ラリー終了後，速やかにラインや砂を直すことを優先し，特にファーストレフェリー・セカンドレフェリーは，毎ラリー終了後にその状態を確認する必要がある。

4　セカンドレフェリーは，ラリー終了後，まずサーバーの確認，スコアラーの任務の確認を速やかに行うとともに、競技エリアの状態を確認すること。

5　ファーストレフェリーがキャプテンの質問に答えた後にも，質問を繰り返したり，規則の適用や解釈ではない質問で中断を長引かせるようにした場合も遅延行為となる。

【5】　公式記録記入法に関する事項

2　トスの後に

2.2　セカンドレフェリーから

a）最初にサービスをするチーム

b）それぞれのチームの試合開始時のコートサイド

（注）

1　トスに勝ったチームが選択をした後，もう一つのチームが選択を終え，両キャプテンが記録用紙にサインをしている間に，ファーストレフェリー・セカンドレフェリーでトスの結果を復唱し，両者で間違いがないか確認する。

2　両キャプテンが記録用紙にサインをし終えたら，セカンドレフェリーがスコアラーにトスの結果を伝える。

3　公式練習が終了する前に，スコアラーがトスの結果とサービス順を正しく記入しているか，ファーストレフェリー・セカンドレフェリーがスコアシートを確認する。

4　試合終了後，マッチプロトコールにしたがってレフェリースタンド前からスコアラーズテーブル前に戻る際，キャプテンがサインし終わるまではスコアラーズテーブルのそばに近寄らず，一定の距離をあけて待つ。必要であれば，レフェリーがベンチに近寄ってキャプテンに声をかけてよいが，即座にサインをするよう強要すべきではない。

【6】　メディカルアシスタンスプロトコールに関する事項

17.1　負傷／病気

17.1.1　ボールがインプレー中で，もしも重大な事故が起きた場合には，レフェリーは直ちに試合を止め，医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。ラリーはその後，やり直しとなる。

（注）

1　ラリー中に重大な事故が発生し，選手が出血している場合，またはプレーが続行され選手が状態を悪化させる可能性がある場合，レフェリーはただちに，ホイッスルしてプレーを止める必要がある。その後，ラリーはやり直される.

2　試合中のプレーの過程で，本当に外傷性負傷を負った選手に適切な治療を提供するとともに，すべての当事者の安全を確保するために，不正防止を目的として十分な注意を払う必要がある。

3　外傷性負傷は、プレーアクションに起因する不本意な影響の結果で，選手同士の接触，用具等との衝突，ボールが当たった場合など，明らかに目視で確認ができ，また砂に着地したり，ボールを追いかけることで膝や足首をねじったりするなどの負傷など，コート上の他のプレーによって引き起こされる可能性もあることに注意する。

4　例えば、プレーの着地時の足首や膝の負傷，ダイビング中の砂の衝撃による肩の損傷などの場合，許容可能な範囲で柔軟性を持って対処しなければならない。ただし，砂の衝撃によって引き起こされる腰痛などの間接的要因での負傷は許可することはできない。

5　選手が負傷/病気になった場合，ラリー終了後ただちに，セカンドレフェリーは選手が医療支援を必要とするかどうかを確認する必要がある。

ファーストレフェリーはまず，チームタイムアウトを許可し，その後，次に問題が解決しない場合にのみ，ファーストレフェリーがメディカルアシスタンスプロトコールの開始を許可し，医療スタッフ到着後，ただちにファーストレフェリーがホイッスルをしてプロトコールを開始する。

6　レフェリーは，メディカルアシスタンスプロトコールを開始する前に，その性質（出血，外傷性負傷，または猛暑等厳しい気象条件による病気）および程度（軽度または重度）を判断する必要があるため，負傷/病気に至る状況を把握していなければならない。

7　猛暑等厳しい気象条件が許可された場合は、筋肉の痙攣等もRIT（猛暑等）を適用できる。

8　一試合中に同一選手がMTO（出血をともなう負傷）とRIT（外傷性負傷）の両方を要求し，さらに，他の２つのタイプのRIT（猛暑等またはトイレの使用のいずれか）を要求する可能性があり，これらは使用順序に関係なく許可される。

9　試合（最初のサービス）が開始されていなくても，チームはタイムアウトを取得でき，必要であればメディカルアシスタンスを要求する権利がある。

10　ファーストレフェリーは負傷選手の対応をし，セカンドレフェリーはスコアラーとコート全体の対応をする。また，プロトコール終了はファーストレフェリーのホイッスルによって通知し，セカンドレフェリーは選手が速やかにコートに戻るよう指示する。

11　スコアラーは下記の２つの時間を記録することが重要である。：

（1）ファーストレフェリーがメディカルアシスタンスプロトコール開始のホイッスルをした時間。

（2）ファーストレフェリーがメディカルアシスタンスプロトコール終了（許可された最大５分後，または公式医療スタッフによる治療が完了したと宣言された直後か，治療が提供できない場合，または選手がプレーを再開する準備ができていると宣言した場合）のホイッスルをした時間。

12　さまざまな種類の負傷/病気と医療支援

負傷の種類		程度	措置	許可・計時
メディカルタイムアウト (出血をともなう負傷) MTO (Blood)		軽度	ー遅延なく治療 ー医療支援なし	ファーストレフェリーにより許可
リカバリーインターラプション（RIT）	RIT (Traumatic Injury) 外傷性負傷 プレー中に発生した事象のみ 例：選手が支柱にぶつかる， 選手間の衝突など	重度	ー最初に，その時点で利用可能な TO または TTO，セット間を使用 ーMTO または RIT/最大５分	許可された時点から計時を開始
	RIT 猛暑等厳しい気象条件による病気 競技委員長が，審判委員長と協議したうえで，公式に厳しい気象条件下であると通知した場合のみ	ー最初にその時点で利用可能な TO またはその他の正規の中断を使用 ーRIT/最大５分		ファーストレフェリーにより許可 許可された時点から計時を開始
	RIT トイレの使用 通常の試合中，選手がトイレの使用で遅延した場合のみ	ー選手は，ゲームを遅らせない限り，試合中にいつでもトイレを使用する権利がある。 ーその時点で TO が残っていても TO を要求せずにトイレを使用できる。 ーRIT/最大５分 ー選手が戻ったらすぐに試合が再開される。		ファーストレフェリーにより許可 TO，TTO，セット間の中断中から戻るのが遅れた時点で計時を開始
注：ゲームが遅延されない限り，医療支援はすべての正規およびその他のゲーム中断時に許可される。				

【7】　猛暑対策に関する事項

選手の健康管理を考慮し，競技委員長または審判委員長の決定により，下記を段階的に適用する。

（1）ラリー間１２秒を１５秒に延ばす。（選手には伝えない。）

（2）コートスイッチごとに，速やかに水分補給することを許可する。（ベンチに座ったり，パートナーと会話したり，サングラスを拭く等はできない。）

（3）1，2セット時には２１－２１のときに2回目のテクニカルタイムアウト（ＴＴＯ）を，3セット時には3回目のコートスイッチのときにＴＴＯを行う。

【8】　外部からの妨害に関する事項

17.2　外部からの妨害

試合中に外部からなんらかの妨害があった場合には，プレーを止めなければならない。ラリーはやり直しとなる。

（注）

1　ラリー中，外部からボールが飛んできた場合，コートに向かってきているだけでなく，スコアラーズテーブル前や，エンドラインとバナーの間のフリーゾーンであっても，外部からの妨害を示唆しているため，選手が反応する，しないに関わらず，プレーを止めなければならない。

2　突風等によりパラソルやベンチ周りの物が飛んだりした場合も，選手に危険がおよぶと判断し，外部からの妨害とみなす。

【9】　コーチングについて

付録⑴　国内の大会に適用される 特別競技規則　＊付則の１【監督に関する規定】に関すること

（注）

1　レフェリーは，監督が規定通りに行っているか，また，ラリー中に立ち上がったり，指示や声援をしたりしていないか，注視しなければならない。

2　国民体育大会および，ビーチバレー男女ジュニア選手権大会，大学選手権大会の場合は，上記に加えて以下についても確認しなければならない。

①　ラリー終了後，次のサービス許可のホイッスルまでの間に，立ち上がって指示していないか。

②　チームのコートスイッチによりベンチを移動する際，指示することで遅延をしていないか，積極的にコントロールしなければならない。

③　猛暑の際に給水措置が取られる場合は，ベンチ移動の際に，監督が選手に飲み物を手渡しても良いが，　遅延をした場合には遅延の罰則が適用される。

④　監督がタイムアウトを要求するときに，ハンドシグナルに加えて口頭で要求してもらうよう監督が試合前のサインをする際に，協力を要請する。（口頭だけの要求は許可されない。）

3　ベンチ入りしない監督やコーチ等によるコート外からのコーチングが疑わしい場合は，レフェリーは審判委員長および競技委員長をコートサイドに呼んで報告する。

※この場合の処置はチームに関係なく個人に対してのものであり罰則とはならない。

しかしコーチングを受けたチームに対しレフェリーは口頭で注意を行う。（これは罰則ではない）